長崎保険医新聞 2020 年 7 月号掲載

行ってみんね、来てみんね～㊻

被爆当時の貴重な資料を収蔵

原爆医学資料展示室

原爆後障害医療研究所
資料収集保存・解析部　横田賢一

長崎大学医学部のある坂本キャンパスには、当時の長崎医科大学の被害の様子や救護活動に当たった医師の活動記録、原爆放射線による人体への医学的影響を解説する原爆医学資料展示室があります。爆心から僅か0.5㎞の距離にあった長崎医科大学は、原爆投下により壊滅的被害を受け、５９６人の学生を含む８９８人が犠牲となりました。生き残った学生、医師たちは救護活動に当たり、被害の実相を知るため調査を行いました。

当時のことを知る資料として、被災した医学生が着用していた血染めの白衣、負傷にも関わらず自ら救護活動に当たった永井隆博士が記した原子爆弾救護報告書、調来助（しらべらいすけ）教授による原爆被災復興日誌と原子爆弾災害調査票などが展示されています。大学の被害を示す写真も展示されています。原爆放射線の人体影響コーナーでは、ケロイドや、がんなど、被爆からの経過により見られた様々な障害、原爆症についてわかりやすく解説してあります。常時、被災後の長崎の状況を記録した原爆記録映画（15分）を放映しています。事前にご予約いただければ展示内容の説明にも応じることができます。

県内外から小中高生をはじめ市民の方々や様々な分野の研究者など、多くの方に訪れていただいています。

【住所】長崎市坂本１丁目12－４（長崎大学原爆後障害医療研究所 資料収集保存・解析部）
【電話】０９５（８１９）７１２３
【入館料】無料
【開館時間】平日９時～17時（夏季７月１日～８月31日の土日祝は開館、自由閲覧のみ）

※無断転載禁止